【学年】 5年	【教科・単元名など】 音楽科「音の重なり(音楽会に向けて)」
【実践内容】 ～美しい歌声で みんなの息を合わせ 表情たっぷりの合唱にしよう～ ○題材の目標 ・旋律と低音が作る音の響きや曲想を感じ取って、表情豊かに表現する ○学習の流れ ・候補曲の中から1曲選ぶ。希望のパートを決める。音楽会の概要を知る。 ・主旋律を全員で歌い、範唱CDと聞き比べて学習の課題(願い)を持つ。 ・練習の最後に録音して聞き、振り返りカードに書く。全員の振り返り(願い・反省)と教師の願いをもとに、次時のめあてを教師が設定する。(毎時間) ・「合唱の学年登山」・・・必ず少しでも進む。(毎時間) 《頂上=ゴール=音楽会》 【知的好奇心について】 音楽会に向けての練習は、教師がぐいぐい引っ張っていきがちである。音楽(歌)好きの児童はそれでも一生懸命練習に取り組めると思うが、もともとあまり得意でない児童や苦手意識のある児童にとっては、毎時間の練習が苦痛以外の何ものでもなくなってしまう。そこで、学習全体を通じた課題(願い)や毎時間の学習の課題(願い)を児童から引き出し、「自分たちがこうしたいという思いを達成するため」に練習する意識を持たせるようにした。毎時間の終盤に必ず歌声を録音して聴かせ、振り返りをさせた。その日のめあてと比べて今日の歌声はどうだったかという視点で振り返ることができたので、改善した点がはっきりした。また、現状はこうだからさらにこうなりたいという、ステップをあげていくようなめあて設定もできた。	
【子どもの様子・反省】 歌っている最中は客観的に歌声を判断することは難しいが、録音したものを聞くと、かなりシビアに聴き分けることができる児童が増えた。聴く力がついていく(=現状を把握できる)と、次時の課題も適切に設定することができた。音楽が苦手、歌うことが苦手という児童でも、自分たちの歌声を聴いたり、振り返りをしたりすることはできる児童もいた。 めあての明確化→練習→振り返り→次のめあての明確化→・・・という短い学習のサイクルや、「学年登山」で頂上を目指すという長期の目標をはっきりさせたことは、児童が自主的に取り組むことに有効だったと思う。 音楽会に限らず学年全体での活動では、学習後の個々の思いをカードの記述で把握することはできるが、練習中の個々の変容を見取ることが難しい。 合唱全体のよさや課題は聴き取れても、自分の歌声に反映できない児童についてはなかなか改善できないということも、今後の指導の課題である。	